

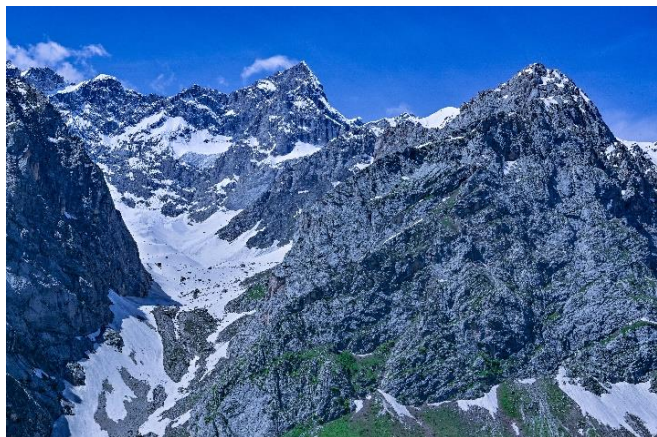
途上国アルバム：タジキスタン、ウズベキスタン、キルギス共和国

中沢賢治

鎌倉風景写真講座会員、全日本山岳写真協会会員、SRID 幹事

1. タジキスタン

2019年5月に産業技術大学院大学（AIIT）の交流訪問でタジキスタンとウズベキスタンを訪れました。そこからご縁が広がり8月に中小企業の金融事情を調査するためにタジキスタンを再訪しました。この国は世界の屋根パミール高原の西側に位置し、フジャンドを中心とする北部とドシャンベを中心とする南部が険しい山嶺で分かれています。人々はファルシ（ペルシャ語系）を話します。この地域がペルシャ勢力圏の東端だった時代の名残りです。中央アジア地域は中国側からは西域と呼ばれ、オスマン・トルコが勢いを持っていた頃はトルキスタンと呼ばれました。時代の変遷を経て多様な文化の名残りを今も感じることができるのがこの地域の魅力です。5月の旅ではタジキスタンの首都ドシャンベから山越えで国境の街ペンジケントに移動し、ウズベキスタンに入りました。国境からチムール帝国の古都サマルカンドへは車で一時間ほどです。



険しい山越えの道



馬は荷物を背負い、羊の群れを先導



峠道の村の少女

パミール高原、ヒンドークシ山脈に源を発して、南からアラル海に入るのがアムダリヤ川、天山山脈に源を発してアラル海に東から入るのがシルダリヤ川です。二つの大河に挟まれた地域はソグディアナと呼ばれました。シルクロードを愛した作家井上靖の短編集「崑崙の玉」にもタジキスタンが

登場します。名作「敦煌」を書いた井上さんは昭和 18 年に出版された松岡譲著「敦煌物語」に刺激されたことをエッセイに書いています。仏教伝来をテーマにした「天平の甍」など中国を舞台にしたいくつもの小説を書いたこの作家が、中央アジアや西アジアに注目していた点が興味深いです。余談ながら漱石門下だった松岡譲氏はわが母校である旧制長岡中学（現県立長岡高校）の先人です。



国境の街ペンジセントの古代遺跡



ドシャンベの市場



民族衣装の女性とモダンな広告

2. ウズベキスタン

5月のウズベキスタン再訪には仕事の他にいくつかの目的がありました。独立以来の長期政権を握ってきた大統領が2016年に交代して以来、新しい風が吹いていると評判のこの国の様子を実際に見てみることにしました。最新事情について EBRD のかつての同僚たちの声を聞いてみたかったこと。駐在していた頃には観る機会がなかったタシケント歴史博物館の仏教遺跡を見学することでした。わたしが事務所長をしていた2003年に EBRD の年次総会が開かれました。中央アジア初の大規模なイベントに向けた準備の様子は世界中のメディアで報道されました。人権問題と独裁的な政権運営をめぐる報道が過熱したことが発端となり EBRD と前政権との関係は冷え込みました。この過程でいくつかの忘れ難い記憶の残る国となりました。古都サマルカンドのアフラシアブの丘の博物館の壁画にはギリシャ風の人物像が描かれています。アレキサンダー大王がこの辺りまで遠征してきたことをしのばせる遺跡です。わたしの事務所長としての最初の仕事は当時のケーラー EBRD 総裁の訪問を準備することでした。IMF に移った後でドイツ大統領になったこの人はサマルカンドの遺跡を訪問すると「子供の頃からの憧れだった」と目を輝かせていたことが記憶に残っています。大王は古代バクトリア（現アフガニスタン付近）の王女オクサナをお妃にしたそうです。現在でもこの二人の名前は多くの人々の名前として使われています。



タシケント歴史博物館にある仏陀像



アフラシヤブ博物館の壁画



サマルカンドのレジスタン広場

タシケントは春のサクラや杏子の花、夏のバラが見事なオアシスの街です。道端のスイカの山は夏の風物詩です。水の管理は中央アジア全体にとっての重要な課題でもあります。旧ソ連時代に綿花など灌漑用水の使い過ぎが、下流に位置するアラル海の縮小と環境被害につながったのは残念です。



ブハラのもドレッセの壁画



カラフルな民族衣装で井戸端会議



シャフリサブスに向かう峠道の大樹

3. キルギス共和国

キルギス共和国は山と湖に囲まれたとても美しい国です。2019年9月に2週間ほど再訪する機会がありました。産業人材育成・中小企業金融事情についての調査でした。2007年秋から2011年の夏までキルギス共和国の首都ビシュケクで勤務した当時の同僚や友人たちと再会を果たす機会ともなりました。この国はわたしにとって中央アジアとの出会いとなったところです。1997年に調印されたカザフスタン国境に近いタラス地方の送電線網の改修工事プロジェクトのチーム・リーダーでした。タラスは751年の夏に唐とイスラム帝国アッバース朝が中央アジアの覇権をめぐって激突した古戦場です。この戦いで唐は大敗し、中央アジアはイスラム勢力圏となりました。



トクマクにあるブラナの塔と石輪



ブラナの塔の隣にある草原の石人たち

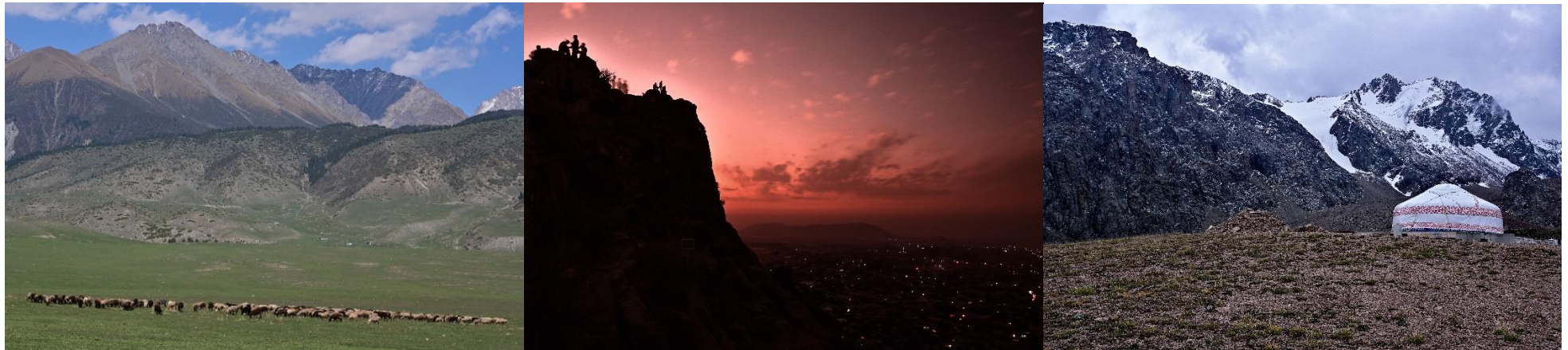


イシククル湖の夜明け

イシククル湖は三蔵法師の大唐西域記にも大熱池、大清池として登場しています。作家の井上靖氏が1960年代に中央アジアを旅した頃は、訪問が許されておらず残念だったと紀行に書いています。旧ソ連の人々にとっては夏のリゾート地でしたが、外国人にとっては幻の湖でした。首都ビシュケクから3時間の山沿いのドライブで西岸にたどり着きます。東岸までさらに2時間かかる大きな湖です。9月の訪問では、この地域で開催された政府主催のラウンドテーブル会議に招かれたので、再訪することができました。この会議には地元企業、政府当局者、開発機関担当者が集まって民間セクターの発展のために官民のパートナーたちがどのように取り組んでいるかが発表されました。参加者の多くが旧知でうれしい再会となりました。

1990年代からのこの国との関わりの中で、もっとも忘れ難いのは2010年4月7日の政変に遭遇したことです。首都ビシュケクの大統領官邸前で大

規模な騒乱となりました。その日のお昼頃にはわたしの住んでいた地区にも 300 人ほどの暴徒が押し寄せました。その晩は自宅で不安な夜を過ごし、翌日から地元の知人の家に避難しました。冬の厳しいキルギスでは暖房に費用がかかり、春先は生活が厳しくなります。2005 年に革命が起きた時も春先でした。それから 5 年経ったばかりでしたが、2008 年の金融危機の後でロシアやカザフスタンの経済が低迷し、出稼ぎの働き手からの送金が減少したことも影響しました。人々の生活が苦しい中で 2010 年の初めに電気、ガス、電話など公共料金の値上げが発表されると緊張が高まりました。外国メディアが大統領ファミリーによる国有企業の私物化のニュースを報道すると、これが決定打となり、大規模な衝突を伴う政変が起きました。



イシククル湖南岸の山と溪谷 羊のいる草原

オシュにある世界遺産スレイマン山

中継地カザフスタンの首都アルマーティ郊外

その後のキルギス共和国は民主化への道を歩みました。人々の生活の安定と発展のためには教育の改革と産業振興を通じて国内の雇用を拡大することが不可欠です。自然を愛し、人々の結びつきを大切にするこの国の人々は日本びいきとしても知られています。わたしが注目しているのはこの国の映画が世界的に高い評価を受けていることです。日本でも紹介されたアクタン・アリム・クバト監督の「明りを灯す人」(2010年)、「馬を放つ」(2017年) 他の作品は数々の国際映画賞を受賞しました。どちらの作品もキルギスの美しい自然、伝統への敬意、変わりゆく農村の生活、独立後の世相の変化の中で時流に乗る人、取り残される人をテーマにしたとても印象的な作品です。サディック・シェル・ニヤーズ監督の「山嶺の女王 クルマンジャン」(2014年)も歴史を描いた作品として注目されました。この国を理解するための素敵な手がかりになりそうです。